

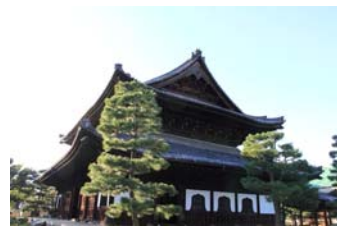
東寺の「弘法さん」・知恩院さん・祇園建仁寺の「竜」・清水寺 2012. 2. 21. & 2. 22.



東寺 五重塔



知恩院三門



建仁寺 法堂



清水寺 舞台

1. 東寺の弘法市

京都の縁日 毎月21日 京都の人は親しみをこめて「弘法さん」と呼ぶ 東寺の弘法市

昔とは比べ物にならぬ露天・人の賑わいと聞く。かつては 骨董市・盆栽市に食べ物の露天など

年寄りがゆったりと露天を覗き、思わぬ掘り出し物を見つける市とっていましたが・・・

2. 知恩院の三門と大鐘楼

京都のお寺の入り口にそびえる山門 天竜寺と知恩院どちらも「三門」と書く。

なぜ・・・ また、どちらが 大きいのだろうか・・・

もうひとつ、除夜の鐘で有名な大鐘楼 どこにあったっけ???? 三門前は通るが中は良く知らない。

3. 建仁寺の「竜」

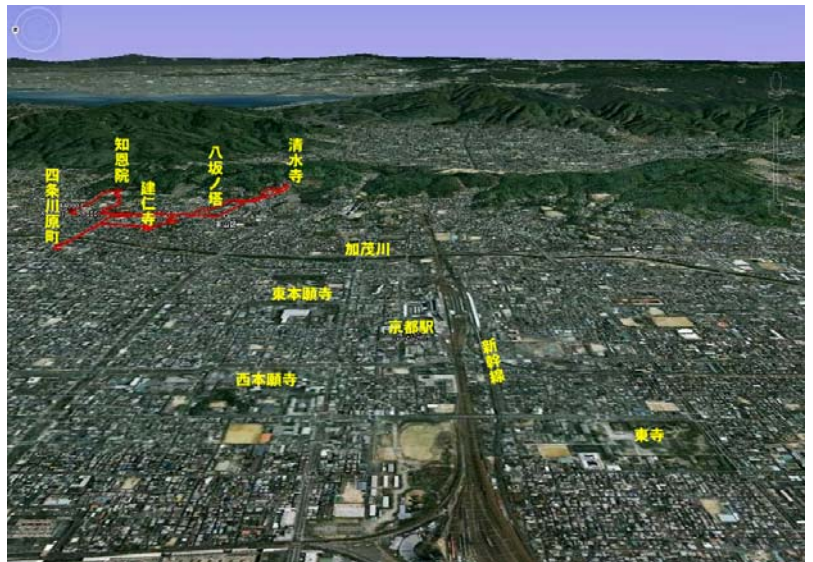
祇園の街中にあるが、いつ通っても静かな建仁寺ここのお堂にすごい竜の天井画が奉納された。

製作過程をTVで見たが、その迫力 天井画になって あの迫力は どうなっただろうか・・・

4. 清水寺にある古代東北 蝦夷の首長アテルイ・モレの石碑

京都で一番東北・そしてやさしさを感じる寺が清水寺。

その舞台の下に古代東北 蝦夷の首長アテルイ・モレとこの寺の建立者 征夷大将軍坂上田村麻呂の心の交流を示す石碑ある。私は何度も訪れて良く知っているのですが、京都育ちの家内は知らないという



良く知られたお寺で 京都人ならば、「いつもその辺通って、よく知っている」というでしょう。でも 其の中身は・・・ 何度か訪れたことがある。でも、京都育ちの家内も私も話していて、寺の中の様子になるとからっきし 自信がない。今度 京都に出かけた折に 一度ゆっくり歩いて 東山界隈のお寺の中を歩こうと・・・

2月21・22日 家内の実家のチェックとちょっと用があって 京都へ行く機会に久しぶりに東山界隈のお寺を車じゃなしに Walking しよう。21日京都の町に入って、いつもは車ばかりが目立つ東寺界隈が露天と人並みで大賑わい。はっと気がついて、「21日は弘法さん」これはラッキー 今の弘法市を見る良い機会。家内は和服リフォームの古い着物地の露天を目ざとく見つけて 眼を輝かせている。また、所用を済ませた22日 久しぶりに京都東山界隈のお寺をのんびりと門前に立ち並ぶみやげ店に立ち寄って試食したりの行き当たりばったりの街歩き。別に用のない一日 ゆったりと境内を歩き、お寺の木造建築の緻密さ・美しさに見入ったり、お堂に入って仏様や庭やお目当ての天井画を見たり、お坊さんの講話も聞きました。時間を気にしながらのスピード見学になる車とはちょっと違った感覚のゆったりとした東山界隈の寺散策を楽しみました。

そんな京都東山界隈の知っているようで知らなかったお寺の境内 walk を写真アルバムにまとめました。

◎ 東寺と弘法市



東寺前



弘法市の賑わい



東寺食堂

東寺（教王護国寺が正式名称）は平安京遷都（延暦13年・794年）の際に正面入り口の羅生門を挟んで延暦15年（796年）に東西に建立された寺院の一つで、現在は東寺しか現存していない。

寺が本格的に活動を始めたのは、空海が唐より帰朝後、東寺を真言宗の根本道場とし、弘法信仰が広まると共に隆盛したといわれ、弘法大師信仰の強いお寺である。

- ◆ 南大門から一直線に並ぶ伽藍は荘厳で、特に京都駅近くに遠望される五重塔は京都のイメージシンボルになっている。兵火等で創建時の建物は失われたが、現在の伽藍は奈良時代の伝統的な伽藍配置をふまえて、秀頼/家光時代に再建されたもの。多数の国宝、重文を有することで知られており、ことに密教美術の宝庫として有名である。
- ◆ 弘法大師の命日である3月21日に、東寺の御影堂で行われる御影供の参拝者を目当てに露店が出るようになったのが、「弘法市」の始まり。

現在では1200~1300店を越える露天が境内にぎっしり建ち並び、新旧いろいろな食べ物の店を始め、古道具、古美術、骨董、古着、着物や帯、小物をはじめ、カレンダーや文具アクセサリなど何でも売られていて、数多くの人でにぎわう。京都の人 誰もが知る一番馴染みの深い縁日である。

◎ 知恩院 三門



知恩院三門



知恩院 遠景



知恩院 三門

知恩院は、全国に7000余の寺院を擁する浄土宗の総本山。法然上人が浄土宗を開創し、念仏の教えを説いた寺であり、また、建暦二年（1212）入寂した地で、現在高台に法然上人の御廟がある。本殿は御影堂と称し法然上人像を祀る。

- ◆ 境内は73000坪を誇り、江戸時代の元和7年（1621）に二代将軍徳川家忠が三門を建立。また寛永16年（1639）に徳川家光公が御影堂を建立するなどし、現在の寺が形づくられた。
- ◆ 知恩院へ来て、まず対面するのが高さ24メートル、幅50メートル、木造の門としては日本最大級の三門（国宝）である。近世初期の建物である三門を始め、経蔵・大方丈・小方丈 など重要文化財も多い。



◎ 建仁寺の竜と俵屋宗達「風塵雷神図」



建仁寺方丈



境内



建仁寺 法堂

臨済宗建仁寺派の大本山。1202年（建仁2）栄西禪師が建立した京都最初の禅寺で、1586年（天正14）ごろ、安国寺恵瓊により再興され、京都五山第3位の格式を持った。勅使門（重文）は、銅板葺、切妻造りの四脚門で、扉に矢痕があるところから矢の根門とも呼ばれる。方丈（重文）は、銅板葺、単層入母屋造で、文禄年間（1592-96）に安芸の安国寺から移築したもので、白砂を敷きつめた枯山水庭園がある。

また、建仁寺は俵屋宗達作の最高傑作国宝「風神雷神図」を所蔵し、立派な龍「雲龍図」と「双龍図」がある。



俵屋宗達 国宝 風神雷神図

「雲龍図」は海北友松によって桃山時代に描かれた方丈襖絵で、とても迫力のある襖絵の龍である。もうひとつの「双龍図」は、平成14年（2002年）創建800年を記念して小泉淳作画伯によって2年の歳月をかけて描かれた法堂（はっとう）の畳108枚分の大天井画。これもまた大迫力である。なお、龍は仏の教えをたすける八部衆の一つといわれ、住職が上がって仏法を大衆に説く法堂（はっとう）の天井に数多くの龍が描かれている。建仁寺法堂は今回天井に竜が描かれるまで、天井画が描かれたことはなかったという



方丈襖絵 海北友松作「雲龍図」



法堂天井画 小泉淳作「双龍図」

◎ 清水寺 古代東北の雄アテルイとモレの碑



清水寺 正面



清水寺 舞臺



北天の雄 阿弭流為・母禮之碑

「清水の舞臺」で有名な清水寺は778年（宝亀9年）延鎮上人により開創され、その後、坂上田村麻呂が帰依し、堂塔伽藍を整備したという。本尊は十一面千手眼観世音菩薩。

蝦夷征伐の征夷大将軍 坂上田村麻呂坂村麻呂を知っている人は多いが、敵となった蝦夷の首長阿弭流為・母禮の名や阿弭流為・母禮の碑が坂上田村麻呂ゆかりの清水寺にあることを知る人は少ない。

- ◆ 清水寺の寺伝によると、「木津川の北流に清泉を求めてゆけ」との霊夢を受けた延鎮上人が音羽山麓の滝のほとりて、草庵をむすんで永年練行をしていた行叡居士から観世音菩薩の威神力を祈りこめた霊木を授けられ、その木で千手観音像を彫作し、居士の旧庵にまつたのが清水寺の起こりとされている。その翌々年、坂之上田村麻呂が妻の安産のために鹿を求めて入山して清水の源をたずねた田村麻呂が、出会った上人から殺生の非を諭され、自らの行いを悔い、鹿を弔らつて下山し、妻室と共に深く観世音に帰依するようになり、清水寺に仏殿を寄進し、ご本尊に十一面千手観音を安置した。

その後、上人は田村麻呂と協力して地蔵尊と毘沙門天とを造像してご本尊の両脇土とし、本堂を広く造りかえ、今の清水寺の元を築いたと伝えられる。

また、現在の清水の舞臺は、江戸時代の寛永10年（1633年）に徳川家光の寄進によって再建されたもの。

- ◆ この舞臺の下の崖の縁にアテルイ・モレの石碑（「北天の雄 阿弭流為（あてるい）・母禮（もれ）之碑」）がある。

岩手県奥州市地域を本拠地とした蝦夷（えみし）の首長・阿弭流為（アテルイ）と母禮（モレ）の名前である。

二人は平安朝廷の東北平定政策に対して勇敢に戦ったが、郷土の犠牲に心を痛め、征夷大将軍・坂上田村麻呂の軍門に下りました。將軍は両雄の武勇、器量を惜しみ朝廷に助命嘆願しましたが、許されず処刑された。

石碑は平安建都1200年を期して1994（平成6）年に有志により建立された。

- ◆ 山口の童謡詩人金子みすずの詩をモチーフにどこか哀愁を帯びた童子を手がけるなど そのやさしいまなざしを描く風の画家中島潔氏が5年以上の歳月をかけて金子みすずの代表作「大漁」はじめ、襖絵46枚を清水寺に奉納した。本年1月末大阪でその襖絵46枚が襖ごと展覧された展覧会が大阪で開催され、見に出かけたところでした。



八坂ノ塔



知恩院境内 石段上から見る山門



祇園八坂神社石段下

京都東山界隈のお寺散策 写真アルバム

2012. 2. 21. & 2. 22.

東寺の弘法市・知恩院・祇園建仁寺の竜・清水寺

1. 東寺の弘法さん 2012. 2. 21.



弘法さんへ向かう人の波でぎっしりの東寺正面 2012. 2. 21.



東寺 正面 南大門から金堂前へ



弘法市の露店 2012. 2. 21.

東寺の弘法さんが、こんなに人で一杯になっているとはびっくり。また、立ち並ぶ露店も境内の中はもとより、東寺正面から東門にかけての堀に沿う歩道そして北門の参道にもびっしりで、1000を超える店の数だという。

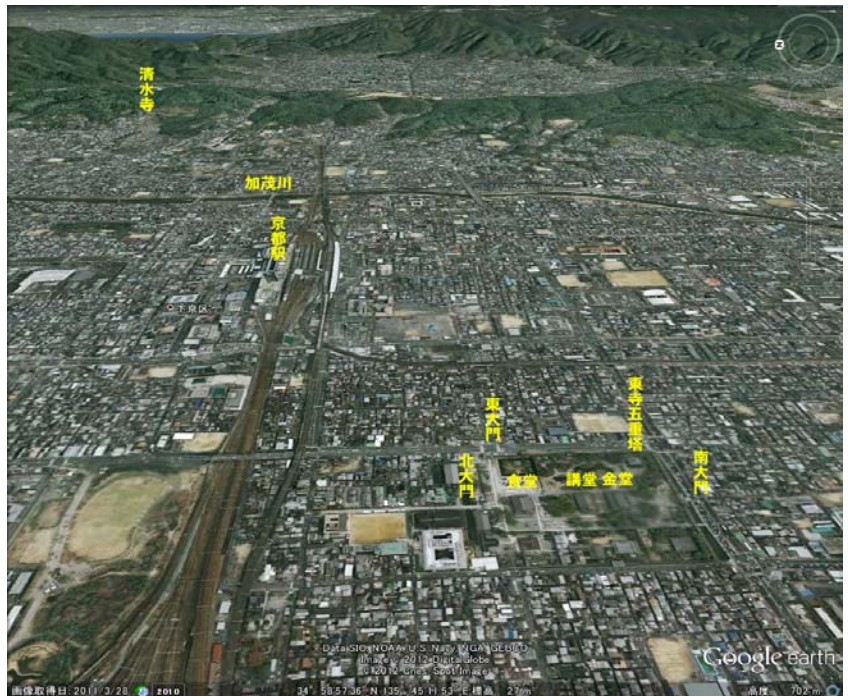
家内は「弘法さんへは 小さい頃 盆栽を買いよう母に連れてきてもらった」と言い、家内が二つ返事で飛び込んだお目当ては和服リフォームに使う古い着物地を手に入れること。

一方 私は目的なしの野次馬ですが、もう季節的にしまいになるスグキを樽から出して売る洛北の農家(漬物屋)を見つけて思わず飛びつきました。

また、「新品やで わしが作った帽子や」と言うので、安い帽子もひとつ。「おっちゃん うまいこと作るなあ・・・」という「わしはプロや。みんな帽子の間屋へ持っていきやつや」と。バザーか骨董市のイメージで話かけると、弘法市はプロが出している常連店が多い。

家内もリフォーム用の反物をかかえてご満悦。こんだけあれば 作り出があるなあと……。

本当に弘法さんに来たのは何十年ぶりかですが、病み付きになりそう。「次 また京都に来るときは21日にしよう」と。



本当に弘法さんに来たのは何十年ぶりかですが、病み付きになりそう。「次 また京都に来るときは21日にしよう」と。



正面金堂前 2012. 2. 21.



金堂の西側から十一面観音の札所 食堂への参道で



和服の古着や着物地 そして 和服をリフォームした洋服・小物を売る露天のなんと多いこと さすが京都
家内もそうですが、和服のリフォーム ブーム



食堂・北門周辺で



東大門から北大門・食堂への参道で









2. 知恩院の三門と鐘楼 2012. 2. 22.



知恩院 三門



除夜の鐘で知られる知恩院 大鐘楼

知っているようで しっかりと見えていない知恩院 京都の人は愛着を込めて「知恩院さん」と呼ぶ
東大路通りの祇園石段下から100mほど北側からまっすぐ東山へ向かって緩やかな坂道を上ってゆけば、正面に大きな知恩院の三門。坂を南に下れば、円山公園から八坂神社である。三門の向こうには東山の西斜面山腹に広い境内があり、一番奥に除夜のどでかい鐘で有名な知恩院の鐘楼がある。

「知恩院さんと南禅寺 三門はどちらが大きいやろか??
知恩院は三門と書く。南禅寺は山門 or 三門どっちだろう??
鐘楼はどこにあったっけ??

そういえば知恩院の三門 写真では奥に急な階段が写っているが、記憶ないなあ」等々。

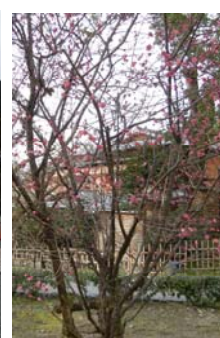
話していると知っているようで 知らないのである。

南禅寺三門 高さ約22m 知恩院三門は高さ約24m

三門とは 空門・無相門・無願門の三境地を経て仏国土に至る門、三解脱門を表すとされ、初期の寺院の門構えは南面する正門、東西二つの副門から構成されており、これを称して三門と呼んだという。

時代が下ると左右に脇門が付属する大門の形となり、さらに大門のみとなったが、三門の呼び方は残ったとされる。 また、南禅寺も三門と呼ぶそうである。

境内では今 御影堂や方丈など主要建物の屋根の吹替え修理など大掛かりな足場が組まれ、境内の整備中でしたが、暇に任せて 知恩院の境内の奥鐘楼まで登って 祇園石段下へゆっくり歩きました。



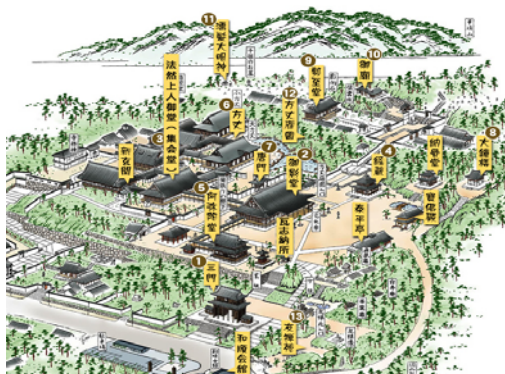
三門から急な階段を登った上に主要建物がある。その中心が元祖法然上人の御影をまつる御影堂。今修理中ですっぱり扉で囲まれていました。そして 山すそ奥に鐘楼がありました。



下の三門と御影堂など知恩院の主要建物がある上段境内を結ぶ急な階段



鐘楼へ登る道から見た左 経堂 右奥 御影堂





除夜の鐘で有名な知恩院の大鐘楼



知恩院に隣接した梅林では花が咲き出していました

知恩院の境内から三門へ降りて そこから 円山公園を通り抜けて八坂神社へ
円山公園の今年の枝垂れ桜はどうだろうか・・・

まだ 枝には花芽がよくわからない。これからだ。

「今年も綺麗な花をつけてくれよ」と声をかけて 八坂神社の境内へ境内へ下ってゆく。
花はまだこれからである。



円山公園の枝垂れ桜

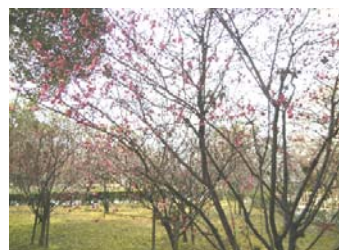
まだまだこれから 今年はどうな花を咲かせるだろうか・・・



祇園石段下



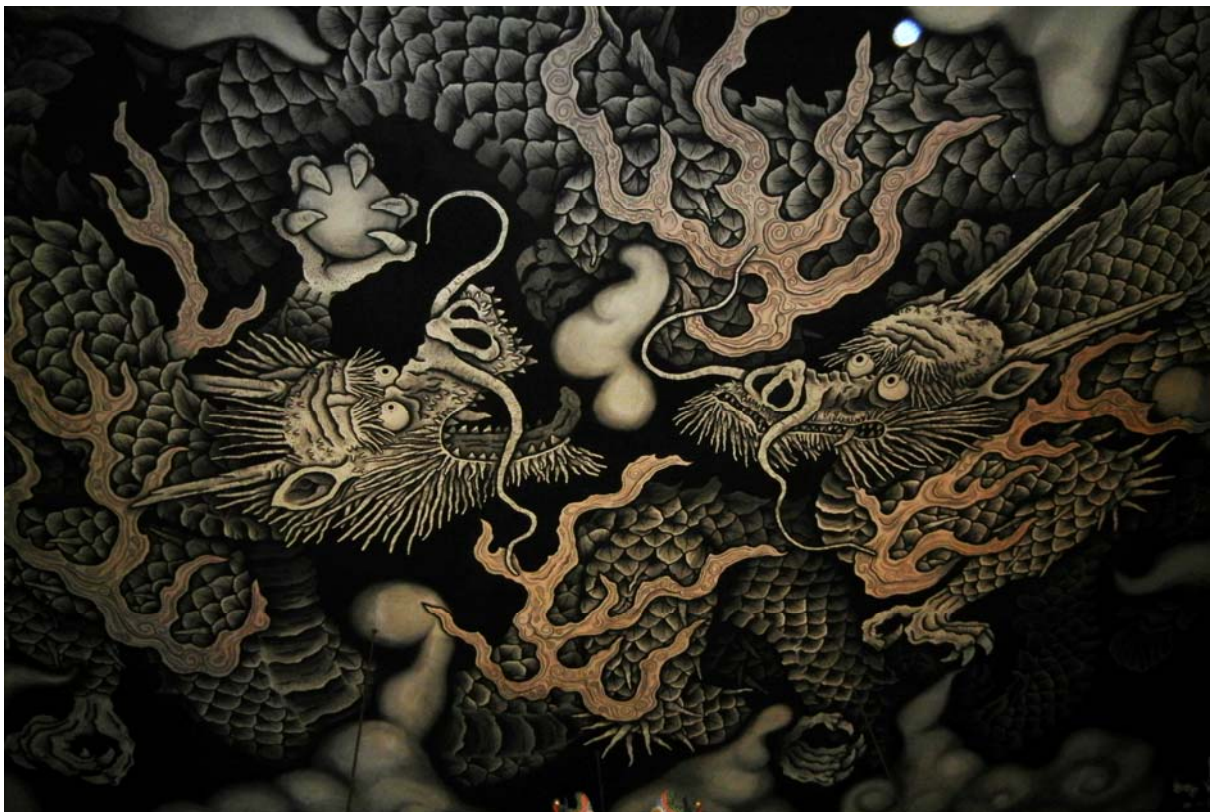
八坂神社



3. 建仁寺 龍の天井画



祇園のど真ん中にある建仁寺 長いこと行かないなあ。京都五山に数えられる禅寺で、周りの喧騒から隔絶された静かな寺で、ここに2年の歳月をかけて描かれた天井画がある。その製作過程がテレビで放映され、その労苦と出来栄えに是非とも見たかった天井画。薄暗い天井に浮かび上がる龍。凄い迫力にでした。



建仁寺法堂の天井画 小泉淳作「双龍図」

もうひとつこの寺には有名な国宝第一号 俵屋宗達の「風塵雷神図」がある。
龍の迫力もさることながら、俵屋宗達の屏風を前に語ってくれた建仁寺のお坊さん
の講和にいたく感銘を受けましたので、ご紹介。

俵屋宗達の国宝「風神雷神図」には宗達の署名印がないと言う。

禅宗の「禅」の心とは 見返りを求めぬ心にあると言う。
俵屋宗達も 禅の心を知り、自分の描いた絵に自分を求めず
署名印を押さなかったという。



禅宗には 「死はない」と言う。

「 50 生 人間の一生 50 生で まためぐり合うと言う。

したがって、今日出会った人も 15000 年前からの繋がり。
お帰りなさいと言う。

今回の東日本大震災で 数多くの方が旅立っていったが、
いつの日にか めぐり合える。

また、新しく生まれた赤ちゃんに

お帰りなさい めぐり合えましたね 」と声をかけ、喜びにかえると言う



方丈襖絵 海北友松作「雲龍図」





建仁寺法堂の天井画 小泉淳作「双龍図」



お茶屋など古い京都 祇園の風情が色濃く残る建仁寺から花見小路への道 祇園界限

4. 清水寺 古代 東北の雄 アテルイとモレの碑



清水寺 正面



清水寺 舞台



北天の雄 阿弭流為・母禮之碑

「 あの高嶺 鬼すむ誇り その瀬音 久遠の賛歌
この大地 燃えたついのち ここは 北上
- 北上市市民憲章より 」

東北の人達は自分達のルーツとして 蝦夷の首長 阿弭流為に強い愛着と親しみを持っている。

関西にいて東北が一番感じさせてくれる寺が清水寺。

私は この阿弭流為・東北が好きで 京都へゆくと、時折 ぶらっと この清水寺を訪ねます。



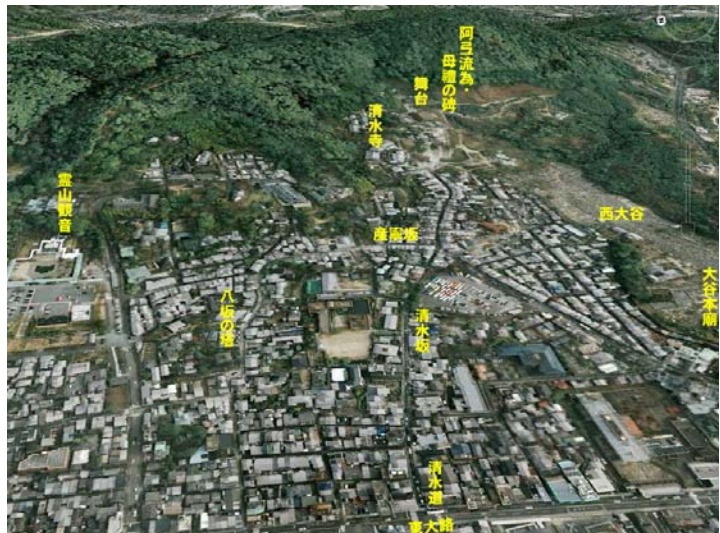
清水寺は蝦夷征伐の大將軍 坂上田村麻呂ゆかりの寺で、敵となった蝦夷の首長阿弭流為・母禮 両雄の武勇、器量を惜しみ、朝廷に助命嘆願。しかし、許されず処刑されてしまった。この阿弭流為・母禮の碑が清水寺の舞台のすぐ下の崖縁の小さな広場に建っている。

昨年は東日本大震災が起り、東北の人達の心のよりどころとしてこの「あの高嶺 鬼すむ誇り その瀬音 久遠の賛歌 この大地 燃えたついのち」を意識していました。また、金子みすずの詩やこの金子みすずの詩をモチーフにちょっとさびしげな顔をしてたたずむ子ども達を数多く描く風の画家 中島潔氏の絵にも同じような親しみを感じています。

その中島潔氏がみすずの代表作「大漁」さらに5年の歳月をかけて制作された襖絵46面を清水寺(成就院)に奉納され、今年1月大阪でそれらを展覧する中島潔「生命の無常と輝き」展が大阪で開催され、見る事が出来ました。

自分の抱く清水寺のイメージにぴったりで、ひとり喜んでます。

そんなことで、最近 家内ともこの東北のアテルイ・金子みすずなどを話題にすることが、多く、京都へ今度行く機会に清水寺の阿弭流為・母禮の碑をぜひみたいという。





清水の舞台を清水寺の奥院への道から眺める





清水の舞台の下の小道にある阿弋流為・母禮の碑



清水の舞台の下を谷に面して道がつづく、この道の脇に阿弋流為・母禮の碑がある 写真右中央

風の画家 中島潔が描く「生命の無常と輝き」展

京都・清水寺成就院に奉納 襖絵全46点集結

郷愁誘う未来の古典

「風の画家 中島潔が描く『生命の無常と輝き』展が2月1日、大阪市中央区の大阪高島屋7階グランドホールで開幕する。人気画家、中島潔さん(88)写真による日本画など約100点。中でも5年の歳月をかけ、2010年に京都・清水寺成就院に奉納した襖絵全46点(面)は、中世の昔から、名刺の障壁面(襖絵、天井画など)を手がけることとは、絵師にとって栄達を意味した。それらの仕事から、狩野永徳「花鳥図襖」(京都・大徳寺聚光院)のよう

に、日本美術史に残る傑作が生まれた。格式ある寺を飾る絵は、当代一流の日本画家が描く。その原則は現代も崩れていない。故・東山魁夷は奈良・唐招提寺の障壁面を、故・加山又造は京都・天龍寺の天井画を任せられた。そういう意味では、正規の日本画教育を受けていない中島さんが清水寺の襖絵に挑み、老若男女に訴求する作を完成させたのは、画期的なニュースと言っ

てよい。中島さんは高校卒業後、肉体労働をしながら独学で絵を学んだ。郷愁を誘い、風の気配を感じさせる画風で、群の人気を誇る。「40年以上にわたるキャリアの集大成。すべての思いを込めた。」(中島さんの)のが成就院の襖絵。かぐや姫▽風「大漁」は童謡詩人、故郷春初夏秋金子みすゞの同名の詩を絵画化したもの。無数のイワシが8枚の襖を埋め尽くす。めでた

い三つこの画題から成るこのうちの「風の故郷」には、画家が子供の時代に見た古里・佐賀の風景が織り込まれている。春「花別れ」、夏「向日葵」、秋「紅葉」、冬「雪の音」。季節の移ろいの中に、人生の無常、哀楽、生命の輝き、絆、愛など、さまざまなキーワードを溶け込ませ、深遠な手ゆを現出させている。「にわか雨」は琳派の装飾美と、余白の美を対比、同居させた意欲作。「表現したかったのは怖さや恐れ、自

然なく、さまざまの一見の価値がある。



毎日新聞 2012年1月31日(火)夕刊より



日本寺成就院開院「大漁」



「花かぐや姫」



「雨音」

— “Inochi no Mujo to Kagayaki” Fusuma paintings Arts by Nakashima Kiyoshi Jojuin, Kiyomizu-dera Temple, Kyoto —

京都 清水寺 成就院奉納襖絵

風の画家 中島潔が描く「生命の無常と輝き」展

「風の画家」と呼ばれる中島潔の作品は、NHKの番組「みんなのうた」に取り上げられたのをきっかけに、多くの人々に親しまれてきました。「こどもの感性を常に持ち続けること、それが私の絵描きとしての原点です」と語る中島潔の絵の中には、小さいのちの輝きがいっつも風のように流れています。母の死をきっかけに、18歳でふるさと佐賀を飛び出し、温泉掘りや印刷所、広告会社などではたらきながら絵を描き続けてきた中島潔。28歳(1971年)で単身パリに渡り、画家になる決心をしてから、今年で41年になります。2010年には、5年の歳月をかけて描きあげた、集大成ともいえる清水寺成就院の襖絵を完成させました。46面に及ぶ作品からは、これまでの歩みをさらに進め、新たな画境へと向かう強い思いを感じ取ることができます。本展では、清水寺成就院の襖絵と41年にわたる代表作を合わせ約100点を展示し、中島潔の優し切ない独自の世界をご紹介します。



「朝顔の音」



「雨音」



「身投げ」

[中島潔画伯サイン会開催]

- 2月1日(水)午後2時
- 7階グランドホール 特設コーナー

※関連書籍、前巻などお買上げのお客様先着70名様限り。※詳細は会場様におたずねください。

Takashimaya OSAKA
www.takashimaya.co.jp



清水寺の門前から北へ産寧坂を下って行くと八坂の塔が見えてくる

